

佳作

10年後の私へ

岩手県盛岡市立下小路中学校

2年 三浦 悠

私は学校が嫌いでした。そんな、曲がった考えを戻すように手助けしてくれたのは保健室の先生で、私にとって特別な存在でした。

とにかく私は集団行動が苦手で、昼休みみんなで遊ぶなんてことは最大の苦しみです。みんなに取り残されるわけではありませんが、一人で行動した方が楽で楽で——。ある日、みんなでケイドロをすることになり逃げていると私より1年歳上の方がぶつかってきて転びました。その人は泣いて周りの女子たちによってたかって「大丈夫?」「誰がやったの?」と心配されていました。逃げました。ケイドロの警察に見つかったからではなく怖くなって。なんで泣くの。自分でぶつかったのに。私はとっさに保健室にかけこみました。そこから保健室がいつもの3倍の距離に感じられたのは気のせいではないでしょう。

教室にはいろいろな人がいます。おもしろくてみんなを笑わせている人、一人でいる人、話すのが上手で聞くのも上手な人、かわいくて男子から人気な人、いつも怒られている人……。その中に、「自己中で自分に甘い人。」とあったら、それは私です。きっと。メンタルが弱く、自分に合わないとすぐ拒絶し頭の中ですぐ「なんであれはこうなんだ!!」と悪口を考え、自分がかawaiiそうな人を装う、ぴったり私にあてはまります。そんなことまで自覚している自分が気持ち悪くて、でもそんなことは認めたくない自分がいて——。夜は、けっこうな確率で怖い夢を見ていました。今まで、私はいろいろなものを拒絶したから今度は私が拒絶される番になって……と現実的な夢が私をおそってきます。行っても変わるわけではないのに、私は保健室に行くようになりました。

保健室は、体をケガした時だけでなく心をケガした時も行ってもよい、というのは知っていました。そしていつの間にか私も2、3日に一度は保健室に通うようになりました。保健室に行くと先生は、何があったのかは全く触れずに、最近の話や好きなキャラクターの話をしてくれました。先生の作業の手伝いなどをして時間をつぶす、そんな日が何週間か続いていたある日先生が、

「がまんも大切だよ。」

と言いました。続けて、

「でもしすぎはもっと良くないけど。」

と笑いました。これがまんがだったら、私の周りには小さな風が吹いて、目がきらきらしていると思います。そして、その瞬間私の汚れた心が布で磨かれそ

こだけ輝いている感じになりました。これが、心が動くということなんだと実感し、なんだか心がムズムズしてきました。人の心を動かす、これは今の私では絶対できません。だから、小学校の時の保健室の先生は私の誇りで憧れで、「大好き」だけでは言い表せない人で、私の特別な存在でした。それが今から3年前のことです。

4月――。桜が散って私は中学生になりました。あの時の心から徐々に変わってきていると思います。今では、心の全てに汚れはなく輝いている……わけではありませんが、前より少しずつ少しずつ汚れは落ちていっていると感じます。中学校は他3校以上の小学校の人が集まり、より人間関係や人との関わり方が難しくなりました。中学校では「保健室にいるのは一日1時間まで。」という決まりがあるだけではないと思いますが保健室に行かなくなりました。「ほど良いがまん」を大切にすると楽になるんだ、と今になって分かるようになりました。

2年生になると小学校の先生が中学校に来る機会が設けられました。授業中、廊下から見えた人はあのときの保健室の先生でした。2年ぶりに会えたのはきっと神様のプレゼントです。こちらには気付いていませんでしたが、それだけで満足でした。しかし、プレゼントはもう一つありました。下校しようと下駄箱に向かっていると先生にばったり会ったのです。視界がぼやけてきました。先生は

「自分の夢に向かって頑張っただけ。」

と笑いました。「はいっ」と涙が出るのをこらえて強く私はうなずきました。

10年後の悠へ。今の憧れている職業に就くことはできましたか？ 人の心を、動かすことができるような人になっていますか？ 10年後にしていることが、あの時お世話になった先生に届けばいいな、と心から感じました。